# 道徳教育全体計画

## 学　校　教　育　目　標

**やさしく 元気で 進んで学ぶ杉谷っ子（タフな子）の育成**

## 指　導　方　針

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳を要として、学校の教育活動全体を通じて行うものであり、道徳科はもとより、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動のそれぞれの特質に応じて、児童の発達段階を考慮して、適切な指導を行う。（小学校学習指導要領解説「特別の教科　道徳」より）

- 教師と児童、児童相互の信頼関係を基盤においた道徳科の指導
- 児童の発達や個に応じ、道徳的価値の自覚を促す指導
- 問題解決的な学習、体験的な活動などの多様な指導
- 道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実

## 各　教　科

| | |
|---|---|
| 国語 | 正しく豊かなことばの学習やすぐれた文章からの感動、感銘を通して道徳性を養う。 |
| 社会 | 地域社会や国土と歴史に対する愛情を涵養し、公民としての資質・能力の基礎を養う。 |
| 算数 | 数理的に捉え筋道を立てて考察する力を育て、道徳的な判断力を養う。 |
| 理科 | 生命尊重、動物愛護の心情を深め道徳性を養う。 |
| 生活 | 自然との関わりに関心をもたせ、自立のための基礎を養う。 |
| 音楽 | 音楽を愛好する心情や音楽に対する感性を育て、豊かな情操を養う。 |
| 図工 | つくり出す喜びを味わわせ、感性を育み、豊かな情操を養う。 |
| 家庭 | 家庭生活をよりよくしようとする実践的態度を育てる。 |
| 体育 | 健康安全に留意し、楽しく明るい生活を営む実践的態度を育てる。 |

## 外国語科・外国語活動

外国の言語や文化、習慣等の理解を深め、国際感覚を醸成する。

## 道徳科の重点目標

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。

(1)　道徳的諸価値について理解する。
(2)　自己を見つめる。
(3)　物事を多面的・多角的に考える。
(4)　自己の生き方についての考えを深める。

(1)～(4)を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

## 低・中・高学年の重点目標

| | |
|---|---|
| 低学年 | A　よいことと悪いこととの区別をし、よいと思う事を進んで行う。<br>B　気持ちのよい挨拶、言葉遣い、動作などに心掛けて、明るく接する。<br>C　約束やきまりを守り、みんなが使うものを大切にする。<br>D　身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。 |
| 中学年 | A　正しいと判断したことは、自信をもって行う。<br>B　相手のことを思いやり、進んで親切にする。<br>C　我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、先人の努力を知り、国や郷土を愛する心をもつ。<br>D　生命の尊さを知り、生命あるものを大切にすること。 |
| 高学年 | A　より高い目標を立て、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜く。<br>B　自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心をもち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する。<br>C　先生や学校の人々を敬愛し、みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくるとともに、様々な集団の中での自分の役割を自覚して集団生活の充実に努める。<br>D　よりよく生きようとする人間の強さやで高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。 |

## 特別活動

| | |
|---|---|
| 学級活動 | 学級生活を通して人間関係を育て、学級に対する適応、健康安全等をもとに道徳的態度を育てる。 |
| 児童会活動 | 自発的、自治的な実践活動を通して、実践意欲を高める。 |
| クラブ活動 | 異学年との交流をはかり望ましい人間関係を築かせる。 |
| 学校行事 | 行事への参加を通してよりよい人間関係・自律・健康・協力・責任・公徳心・勤労・社会奉仕等に関わる道徳性を養う。 |

## 総合的な学習の時間

自ら課題意識を持ち、主体的、創造的に取り組む態度を育て、生きる力や道徳性を育てる。

## 生　活　指　導

一人ひとりが学級や学校生活に適応し、思いやりと豊かな心を持ち、日常生活の諸問題を解決、改善できる子どもを育成する。

- 基本的行動様式の定着
（元気なあいさつ、はっきり返事、やさしい言葉づかい）
- 四小スタンダードの実践
- いじめ問題への積極的な対応

## 学校・学級の生活

- 遊び、学習や係活動を通して心のつながりを図り、個々の友情を育てる。
- 集団登校班の場を通して思いやりの心を育てる。
- 各種行事の企画運営に関わらせ、自ら学校生活の改善に努める意欲を育てる。

## 家庭・地域社会との連携

- 子どもの姿をもとに話し合いの場を設け、「育友会」及び「学校支援会議」との連携・協働を深める。
- 地域社会の行事に参加し、交流を深め、地域の発展に努めようとする態度を育てる。
- 地域人材の活用に努める。